東潮

1. 弁辰の鉄と南北市経
2. 弁状鉄板の生産と流通
3. 鉄鉱の生産と流通
4. 鍛造鉄形の生産と流通
5. 倭と加耶の鉄をめぐって

「三国志」魏書東夷伝弁辰条の「開出鉄採挙彼従取之諸市貿易用鉄如中国用鉄又以供給二郡」、同倭人条の「南北市経」の記事について、好馬・売炭の倭人は、コメを売買し、鉄を市（取）っていったと解釈した。弁状鉄板や鉄鉱は鉄素材で、5世紀末に列島内で鉄生産がはじまるまで、倭はそれらの鉄素材を弁鏡や加耶から国間的な交易によってえていた。鉄鉱および鍛造鉄形の型式学的繫年と分布論から、それらは添東江流域の加耶諸国や栃木江流域の古鉱から流入したものであった。5世紀末ごろ倭に移転されたとみられる製鉄技術は、慶尚北道慶州下流の志清北道鎮川石炭鉱製鉄道跡の発掘によってあらかたとも、その関連で、大阪府大羽浦銅の年代、フイゴ羽口の形態、鉄剣の出土量などを再検討すべきことを提唱した。鍛造鉄形品は農具（鉄・収）で、形態の比較から、列島内もののは添東江下流域から供給されたと推定した。倭と加耶の間において、鉄（鍛鋳）は交易という経済的な関係によって流通した。広開土王碑文などの検討もふまれ、加耶と倭をめぐる歷史環境のなかで、支配、侵略、戦争といった政治的交通関係はなかった。鉄をめぐる経済史観というべき論を批判した。